



信夫第二小学校 学校便り

きらら

〈教育目標〉

「めあてを持ち、やりぬく子ども」の育成

- よく考える子ども (学習：学力)
- 思いやりのある子ども (生活：人間力)
- 体をきたえる子ども (健康：体力)

No.16 令和3年9月17日(金)発行

より質の高い本物の挨拶を目指します！



毎朝、登校指導で子どもたちと挨拶を交わすことが私の1日の始まりです。

「挨拶をしよう」と学校でも家庭でも社会でも当たり前のこととして言います。そして、本校の教育目標実現のための「今年度の重点3項目」の中にも「挨拶の指導の徹底」が掲げられており、子どもたちに「本物の挨拶」を身に付けさせようとしています。

そこでまず、「挨拶とは何なのか・なぜ挨拶をするのか」を考えてみました。禅語でいう「挨拶」は、「互いに和みあって」、「相手の心を開き(挨)、その中に自分の心を投げ入れる(拶)こと」という意味をもっていますので、

これを簡単に解釈すると、「挨拶する側もされる側も心を開く。お互いが心を開いて近づき、人間関係を築いていく第一歩」というような意味になるのです。

人との関わりの中で生活している毎日、挨拶は奥深い意味をもっています。心と心の架け橋をつくる入り口。自分の心を開いて相手に近づく第一歩。人間関係の全ては挨拶から始まります。挨拶という一言の中に、存在承認・感謝の気持ち・尊敬の気持ち・親しみ・優しさ・心配り・・・などが含まれて相手に伝わり、それはそっくりそのまま自分に返ってくるのです。挨拶ができる人は、人間関係が豊かです。学校や家庭・社会を明るくします。そして、物事が円滑に進みます。挨拶には、不思議な力があるのです。

では、どんな挨拶が本物なのでしょう。形式的に言葉を交わすのではなく、相手の心情を感じ取るとともに自分自身も心を見つめることができ、初めて挨拶ができたということになるのだと思います。言葉でも身振りでも文章でも、意識して相手にも自分にも気持ちのよい挨拶を心がけると、一人一人を大切に作る温かい学校・家庭・社会を築いていくことができます。学校でも、「**はっきりと・相手を見て・自分から・心を届ける挨拶**」ができるよう取り組んでいます。コロナ禍で会話の制限がある中でも、目を合わせて、微笑んで、会釈をすることで、心はつながります。毎朝の挨拶は、私と全校生がつながる大切な時間となっています。初めは心を開けなかつた子どもも挨拶を続けていくうちに、自分から私と目を合わせ、先に「おはようございます」と心を開き伝えてくれるようになってきました。

こんな時だからこそ、挨拶の大切さを再認識し、学校・家庭・地域が連携して取り組んでいくことで、心豊かな子どもを育てていきたいと改めて思いました。ご家庭でも挨拶についてお話ししてみてください。

自分、そしてみんな 前進を続ける信夫二小～咲き誇れ信夫二プライド～

☆ 令和3年度西白河小学校理科作品展

特選 4年 小澤 勇登さん

「日本みつばちのふしぎ 日本みつばちのことを調べてみつろうを作ろう」

銀賞 5年 白石 遼太さん

「すった水はどこへ行くのか？にじ色の橋も作ったよ！！」



☆ 第67回白河市発明展

大信商工会長賞 5年 近内 蒼昊さん

「台所スッキリしゅうのうボックス」

※県コンクールに出品されました

学校賞

白河市立信夫第二小学校

